

## F S H注射回数を減らした和牛の過剰排卵処理方法の簡易化

【要約】和牛の過剰排卵処理におけるF S Hの注射回数は、1日1回の3日間注射でも現行法の1日2回の3日間注射と同様に胚が回収でき、処理方法の簡易化が図られる。

三重県農業技術センター 畜産部 家畜改良繁殖担当					連絡先	05984-2-2029	
部会名	畜産・草地	専門	繁殖	対象	肉用牛	分類	指導

### 【背景・ねらい】

F S H製剤は投与後約12時間で血中から消失するといわれている。このためF S H製剤を用いた過剰排卵処理では1日2回、3～4日間漸減的に投与する方法が一般的であり、P G F 2 $\alpha$ 投与を含めると1頭に7回～10回注射しなければならない。この方法では術者が時間的に拘束されるなど煩雑であること、牛へのストレス負荷が大きいことから、注射回数を減らした過剰排卵処理方法の簡易化について検討する。

### 【成果の内容・特徴】

1. 平均回収胚数、平均正常胚数、及び平均Aランク胚数は1日1回3日間注射でも1日2回3日間注射と差がない（表1、表2）。
2. F S Hを30% P V Pと混合して投与する1回注射は、P V Pの調整やF S Hとの混合が煩雑であり、胚の回収にバラツキがある（表1）。
3. 以上のことから、省力化及び人件費や注射器具等の節減による低コスト化が図られ、1日1回3日間注射が簡易で実用的である。

### 【成果の活用面・留意点】

1. 乳牛への応用は、今後検討の必要がある。

[具体的データ]

試験区分

区分	方法
6回注射区 (現行法)	F S H - R 計 2 4 A U を 2 回 / 日 × 3 日間 頸部皮下に漸減投与 ( 5 ・ 5 、 4 ・ 4 、 3 ・ 3 A U ) 3 日目に P G - A 0.6 mg を頸部筋肉内投与
3回注射区	F S H - R 計 2 4 A U を 1 回 / 日 × 3 日間 頸部皮下に漸減投与 ( 1 0 、 8 、 6 A U ) 3 日目に P G - A 0.6 mg を頸部筋肉内投与
1回注射区	F S H - R 3 0 A U を 1 ml 生食で溶解 3 0 % P V P 9 ml と混合、頸部皮下に全量投与 2 日後 P G - A 0.6 mg を頸部筋肉内投与

表 1 胚回収成績

試験区	処理頭数	平均回収胚数	平均正常胚数	平均 A ランク胚数
6回注射区	11	7.7 ± 4.3	5.3 ± 3.2	4.2 ± 2.9
3回注射区	53	7.2 ± 5.4	5.1 ± 4.3	4.2 ± 3.6
1回注射区	17	6.2 ± 5.3	4.1 ± 5.1	3.5 ± 4.6

表 2 ランク別胚回収割合

(%)

試験区	A	B	C	D
6回注射区	54.1	11.8	2.4	31.8
3回注射区	57.3	10.9	1.8	29.9
1回注射区	56.6	4.7	3.8	34.9

A: 優良胚 B: 普通胚 C: 不良胚 D: 変性胚・不受精卵

[その他]

研究課題名: 牛の良質胚多量確保技術の開発

予算区分: 県単

研究期間: 平成7年度(平成5~7年)

研究担当者: 西 康裕、余谷行義